CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.

大和駅東側第4地区第一種市街地再開発事業

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010年追補

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v

スコアシート　　竣工段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.6
Q1 室内環境			0.40			3.6
1 音環境		4.4	0.21	-	-	4.4
1.1 騒音		4.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル	ホール等は高性能の遮音性能とする。	4.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	T-2以上	5.0	0.90	-	-	
2 界壁遮音性能	室間音圧レベル差等級Dr-40	5.0	0.09	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	遮音等級Lr50	5.0	0.01	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	遮音等級Lr50	5.0	0.01	3.0	-	
1.3 吸音	ホールは壁、天井に吸音材を使用し、防振遮音構造としている	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		3.2	0.42	-	-	3.2
2.1 室温制御		3.5	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.48	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能	U=1　SC=0.5程度	4.0	0.19	-	-	
4 ゾーン別制御性	ゾーニング空調・冷暖房切替可	4.0	0.33	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.4	0.07	-	-	3.4
3.1 昼光利用		3.4	0.35	-	-	
1 昼光率	6階講習室Bで算定　2.0≦昼光率＜2.5%	4.0	0.49	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.51	-	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.25	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	庇・ルーバー・ブラインドの設置	4.0	1.00	-	-	
3 映り込み対策		-		-		
3.3 照度		3.0	0.12	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.28	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.31	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	建築材料はF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.46	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.08	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.46	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	建物内その他禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.5
1 機能性		4.1	0.40	-	-	4.1
1.1 機能性・使いやすさ		4.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.06	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.06	-	-	
3 バリアフリー計画	各用途共移動円滑化誘導基準を順守。	5.0	0.88	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	十分な天井高と大きい窓の配置	4.0	0.10	-	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.07	-	-	
3 内装計画	CGによる検証	5.0	0.83	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管;VLP、給湯管;SUS、汚水排水管VP、雑排水管;VP	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			3.1	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		2.8	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化が可能な引込配管、電話引込配管の2ルート化	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.1	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高4m・4.3m・4.5m	5.0	0.16	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1	4.0	0.84	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出		屋上緑化にも中木を多数配置している。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		北側の歩行者専用道路側上階がセットバックした建物構成としている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		歩道状空地、中庭、バルコニーの配置	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光発電の設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率熱源機器を採用	5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価（ERRによる評価）		ERR換算値=35%	5.0		-		
集合住宅の評価			-		-		
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水		節水器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水をろ過して一部の便器給水に利用	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		―	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		岩面吸音板、ビニル床タイル・グラスウール	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	地下1階に十分なスペースのゴミ置場を設置	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			4.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制	事前シュミレーションを実施し、全ての地点でランク1となった。	5.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	0.01	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30		-	